徳島新聞　２０２３年（令和５年）３月２２日　水曜日（２０）スポーツ掲載
徳島新聞社提供

生光学園女子3位

全国高校選抜大会

チーム一丸で強豪撃破

全国高校選抜大会は21日、各地で行われ、徳島県勢は柔道女子団体の生光学園（岸良陽菜乃、木村優花、牛方美羽）が県勢過去最高位の3位に入った。生光学園は1回戦の埼玉栄や2回戦の佐賀商など関東・九州の強豪を連破。準決勝で広島皆実に敗れたが、4強入りを果たした。男子の阿波は初戦で敗退。テニスの男子団体は城南が1回戦で鳳凰（鹿児島）に敗れた。

柔道（日本武道館）

◇徳島県関係と決勝

【男子】団体1回戦
白鷗大足利（栃木）4―0阿波（国士舘東京）
▽決勝
国士舘2―0東海大相模（神奈川）

国士舘は4年ぶり11度目の優勝。

【女子】団体1回戦
生光学園 3―0 埼玉栄（埼玉）
▽2回戦
生光学園 2―1 佐賀商（佐賀）
▽3回戦
生光学園 代表勝ち 1―1 淑徳（東京）
▽準々決勝
生光学園 3―0 沖縄尚学（沖縄）
▽準決勝
広島皆実（広島）2―0 生光学園
▽決勝
柳ケ浦（大分）0―0 広島皆実（広島）代表勝ち
柳ケ浦は初優勝。

県高校柔道史に新たな1ページを記した。女子団体の生光学園が関東や九州の強豪を次々と打ち破り、全国選抜大会で県勢最高位の3位入賞。誰かが負けても誰かが勝って駒を進めるチーム一丸での快挙に、表彰式でメダルを首にかけた3選手はほじけるような笑みをこぼした。

先鋒（せんぽう）岸良が快進撃に弾みをつけた。「自分が流れをつくる」。初戦の埼玉栄戦では積極的に仕掛けると、相手を転がして技ありを奪い先勝した。

続く佐賀商戦では、1―1からの大将戦で牛方が鮮やかな縦四方固め。「組み手でうまく間合いが取れた」と言う通り、体格のいい相手の払い腰をかわして体勢を入れ替え、寝技に持ち込んだ。

負けん気の強い木村は3回戦の淑徳（東京）戦で本領発揮。重圧のかかる代表戦に無心で臨み、終始主導権を握る展開で競り勝った。「佐賀商戦で負けてみんなに負担を掛けたので、取り返したかった」と満足そうに振り返った。

木村も牛方も県外出身。伊田真粧美監督の指導や生光学園の練習環境に魅力を感じ、寮生活をしながら柔道に打ち込んでいる。寮でも同室の2人は練習だけでなく、試合前のリサーチも一緒にする仲。「徳島でいいライバル、仲間に恵まれたと思っている」と口をそろえる。

この日の準決勝では2月に練習試合をしたばかりの広島皆実に全敗したが、全国制覇への挑戦はこれからが本番だ。木村は「個人でもメダルを取るぐらい力を付けて、今夏のインターハイで優勝したい」と目標を口にした。

（平尾貴宏）

柔道女子団体で３位に輝いた生光学園の（右から）牛方、木村、岸良＝日本武道館